宗功寺墓地

【所　在　地】薩摩郡薩摩町虎居 5254・5255
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 50 年３月 31 日

宗功寺は江戸時代の初めに宮之城郷の私領主であった島津忠長によって，現在の宮之城町虎居の松尾城跡に同家の菩提寺として創建されたもので，川内川をはさんで虎居城跡と相対している。

墓地には，２代忠長から現代まで，家族をふくめ 35 基の墓石があり，中国・琉球の彫刻をとり入れた屋敷型の壮大な墓石群の規模は，県下にその比を見ないもので，県内石造墓の代表的なものである。入口左側の，3.5・の礎石に高さ 3.3m もある「祖先世功碑」（歴代領主の功績をあらわした碑）は，弘文院学士林叟の撰文により，延宝６（1678）年，５代久胤（久竹）が建てたもので，全部読み通すことが出来ると台石の亀が動き出すといわれている。

なお，初代尚久の墓は加世田市にある。鹿児島市吉野町にあった 15 代久治の墓は平成３（1991）年に当墓地内に合祀された。

〈参考〉

●宮之城島津家　島津忠良の子尚久を初代とし，慶長６（1601）年２代忠長の時，薩摩郡東郷から移り，15 代久治の時，明治維新を迎えた。

宮之城島津家は，一門家につぐ一所持の家柄で，代々鹿児島藩の中で重要な家老職を勤めた。中でも４代久通は学問・経済にすぐれ，国分や高山の新田開発，永野・山ヶ野などの金山開発，蒲生の植林・製紙などに大きな功績をあげた。